

『家読のススメ』 ~観月台文化センター図書室よりお薦めの本~

家で読んだ本を読めばいいか困ったことはありませんか？ そんな時は観月台文化センター図書室「家読コーナー」をご利用ください。特に絵本による家読は、絵と短い文章で表現されているため家族の会話が広がります。観月台文化センター図書室には家読にお薦めの絵本を多数所蔵しています。今回は、その中の一部を紹介します。

【家族みんなで楽しめる絵本】

- 「なつみはなんにでもなれる」 ヨシタケシンスケ / 作
- 「シバ犬のチャイ」 長谷川義文 / 絵
- 「すてきな三にんぐみ」 トミー・アンゲラー / 作
- 「かいじゅうたちのいるところ」 モーリス・センダック / 作
- 「とじよかんライオン」 ミシェル・ヌードセン / 作



郵送による貸し出しも行っていますので、気軽に問い合わせください



国見町ソフトテニススポーツ少年団

文化・スポーツ団体の活動が再開  
新しい生活様式を取り入れて

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館していたすべての社会体育施設・社会教育施設が5月20日に再開しました。それを受け、活動を自粛していた体育協会・文化団体連絡協議会加盟の各団体の活動が再開し、各施設に活気が戻ってきました。

防対策の工夫をしています。ソフトテニススポーツ少年団では活動前の手洗いや検温記録、活動を小学生と中学生、男女に分けるなどの対策を講じました。町外から多くの人を招き入れる公演や大会などの開催はまだ難しく、以前のようにはいかない点もありますが、各団体では今まで活動ができなかった分を取り戻すように元気に活動していました。



くみにみ卓球愛好会



国見茶道クラブ

国見町剣道スポーツ少年団

生涯学習 つうしん

国見町教育委員会生涯学習課  
(観月台文化センター)  
☎(585)2676 FAX(585)2707  
E-mail shogai@town.kunimi.fukushima.jp  
https://www.town.kunimi.fukushima.jp/site/kangetsudai/

リュッケじかん LYKKE 時間

第16話「好きなこと」から始まる物語

子どもが何かに向き合っている時、それがどんな意味をもつかは、その子の姿をどのように見るか、によって変わってきます。何かに「熱中している・夢中になっている」と見れば、その姿は意味のあるものとなり、「気になる・なんでそんなことしているの」と見ると、意味が見だしにくくなります。NHK連続テレビ小説のモデルとなった福島市出身の音楽家、古関裕而さんは周囲の人たち（親や先生、友達）の理解ある見方があったからこそ音楽に没頭できたと言っています。私たちも、その子の物語が豊かになるような見方をしていきたいものですね。



夢中になる姿に寄り添って！

文：柴田千賀子(国見町出身の保育研究者。仙台大学准教授)

観月台文化センター常設展示 石原コレクション 作品紹介 Vol.18

題名「春山」  
作家 小林 和作  
(こばやし わさく)

カンヴァス・油絵  
各 235 × 325mm



成人学級グループ学習 歴史を再発見 健康ウォーキング



当日は雨が上がり、暑いぐらいの天候でした

成人学級の第1回目の活動となる健康ウォーキングが6月12日、17名が参加して行われました。参加者は講師の笠松金次あつかし歴史館館長から藤田・山崎・石母田の名所や旧跡について解説を聞き、「千年の歴史が息づくまち国見町」を再発見しました。今回は約5kmの2時間半のコースで、約1万歩ほど



笠松さんの解説を聞く参加者

歩き、心地よい汗をかいた健康ウォーキングとなりました。これからも、町の健康ウォーキングマップなどを参考にしながらコースを検討して、実施していきます。

「思考の整理学」 外山 滋比古 著

国見小学校校長 本多 康弘

私のお薦めの一冊②

ある教員に大学入試時の小論文添削を依頼されたことがあります。「どう書いていいかわからない」とい

うので、まずとにかく書いてみようかと話し、何度も放課後の教室で悩みながら書き上げました。さて、「とにかく書いてみよう」は、『思考の整理学』に同様のフレーズがありま

と述べられています。題名からは感じられない感性に訴える優しい表現で、帯には「もつと若い時に読んでいれば…」とも書かれています。なるほど、じっくり考えてみるといういろいろなことがわかり、心の中も整理できて、自分自身の表現につながるものだと思います。私自身、反省を込めて、改めて読み直している一冊です。「第3回目は県北中学校阿部部長より紹介します」